

平成25年度第1回行政改革推進委員会 会議録

○日 時／平成26年3月28日(金) 15:00～17:00

○場 所／浦安市文化会館3階 第3練習室

○出席者／兼村会長、大塚副会長、藤原委員、加藤委員、鵜田委員、長岡委員（全6名が出席。高木委員が欠席）

○事務局／小檜山市長公室次長、高橋企画政策課長、榎行政経営室長、高橋主任主事

○議 題／1. 浦安市の概略について
2. これまでの行政改革の取り組みについて
3. 今後の行政改革の取り組みについて

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 市長あいさつ
4. 自己紹介（委員紹介及び事務局紹介）
5. 会長及び副会長の選出

浦安市行政改革推進委員会設置要綱第6条第2項に基づき、会長及び副会長の互選を行ったところ、会長に兼村委員、副会長には大塚委員が選任された。

6. 議題

議題1) 浦安市の概略について

浦安市の概略（開発概要、財政見通し等）について、配付資料等に基づき事務局より説明を行った。

【発言要旨】

委員： 震災の影響で人口減少があった。その多くが労働世代であった。今後もその傾向は続くのか。今後、人口が2024年度まで伸びて行くのかというところに疑問を感じるが。

事務局： 震災後の一時のような人口流出の傾向はなくなってきていると思われる。転出者への調査の結果をみても、震災が主要な原因であると言っているのは4分の1程度である。日の出地区の新しい住宅地の売れ行きもそこそこ売れている状況であり、この点はもう少し経過観察が必要と思われる。

委員： 今後の行政運営のもととなるデータなので、注視が必要である。

委員： 高齢化に伴い、市の財政収入が減っていく。人口推計だけでなく、市の財政収入の見込みもきちんと立てておくべき。

議題2) これまでの行政改革の取り組みについて

これまでの行政改革の取り組み（行政改革大綱、行政改革推進計画及び行政評価はどのようなものか）について、配付資料等に基づき事務局より説明を行った。

委員： チェックシート等の活用の効果はどれぐらいあったのか。

事務局： チェックシートと行政の守備範囲の明確化による効果として、複数年度合計で約8億円の効果があった。

委員： 感覚として、大きな効果があったと考えているか。

事務局： 手間隙がかかった割にはというところもあるが、事業をやめることはありえず、結果的にこの辺の数字に落ち着いたというところ。

会長： どこの市も、効果といっても職員の削減がほとんどで、政策的な議論があまり進まず、手間隙かけたわりに効果がでていないところがほとんどである。とはいえ、やめるわけにはいかないもので、最近はどこの自治体も簡素化してきている。

委員： 浦安市の決算カードの大きな特徴として、人件費より物件費のほうが多くなっているが、事務事業の見直しをしているにもかかわらず、このような状況になっていることについて、どう考えるか。

事務局： 物件費の中には、非常勤の賃金なども含まれており、その辺も要因となっている。

委員： 見かけ上の人件費は減っているが、実際は減っていない。財政力指数が高い今のうちは良いが、その辺を踏まえた見直しをしていかなければいけないのではないか。

事務局： 企画政策課は、政策を実現させていく側面と行政改革という側面を両方持ち、バランス加減が悩ましいところでもあり、まさしく今後の行革のテーマと認識している。

委員： 今後、コストとロスを見極めていく仕組みづくりが大事になる。

会長： 市民が納得するところにお金が付くなら良い。単に切り詰めていくだけの行革は失敗する。今後その辺の議論が必要。

委員： 単にお金をカットするだけの行革よりも、本来必要であるところにお金を振り分けていく視点での行革が重要。

議題3) 今後の行政改革の取り組みについて

今後の行政改革の取り組み（行政改革から行政経営へという考えのもとでの今後の取り組み、スケジュール等）について、配付資料等に基づき事務局より説明を行った。

委員： 自治体経営、行政経営の仕組みづくりがうまくいっていない自治体が多い。事務事業評価のPDCAサイクルにおいてチェックをアクションに結びつける仕組みを市でどのように考えているのか。

事務局： 実施計画の進行管理のように、庁内で議論し、次年度の予算や施政方針に反映させていくことを考えている。

7. 閉会

事務局より事務連絡を行い、閉会

(16時51分 終了)